



江別ユネスコ協会事務局だより 2017年7月30日号

◇江別ユネスコ協会事務局/067-0074江別市高砂町24-6 教育委員会生涯学習課内(担当:大友 ☎381-1069)

「神宿る島=宗像・沖ノ島と関連遺産群」は世界遺産に全件登録！

第41回ユネスコ世界遺産委員会は、2017年7月2日から12日まで、ポーランド国のクラクフで開催されました。この委員会で、日本政府が推薦した「神宿る島=宗像・沖ノ島と関連遺産群」の登録の可否が審議され、7月9日の会議で「登録」が決定しました。現地調査を担当したユネスコの諮問機関イコモス（国際記念物遺跡会議）が「登録推薦」の勧告を世界遺産委員会に対し行った時点では、構成資産を沖ノ島にある4資産に限定されたので、8資産を推薦した日本側は成り行きを心配していましたが、結局8資産すべてが承認されました。今回の委員会では、21件の世界遺産が新たに追加登録され、世界遺産の総数は1073件になりました。（文化遺産832件、自然遺産206件、複合遺産35件）「危機遺産」については、保全状況が改善された遺産3件が削除されましたが、新たに悪化した遺産2件が追加登録されたので、現在数は54件になっています。

2017年度の「北海道ユネスコ大会 in 釧路」にご参加ください

本年の北海道ユネスコ大会は、10月14日（土）と15日（日）の両日、創立67年の歴史を持つ釧路ユネスコ協会の主管により、厚岸町愛冠6番地の北海道立青少年体験活動支援施設「ネイパル厚岸」で開催されます。大会テーマは「次世代へつなごう～平和の絆・持続可能な社会～」です。基調講演の講師は、北海道新聞社の佐竹直子氏で、演題は「地域における教育の歴史と平和な未来」です。この大会は、「フォーラム①次世代へつなぐ活動」と「フォーラム②民間ユネスコ70周年ビジョン」の2つの討論プログラムを中核にして、変動激しい社会情勢に翻弄される民間ユネスコ活動を如何にして次代の人々へ譲り渡していくか——を真剣に話し合う場をつくろうとしています。

会場は交通が少し不便な地域ですが、厚岸漁協のご協力もあり、北海道らしい大会になりそうです。詳細な日程については、8月中旬に釧路ユ協から各ユ協へ通知があるので、江別からの参加希望者は8月25日（金）までに当協会の事務局へご連絡ください。詳細な開催要項をお渡しします。

「みなかみ」と「祖母・傾・大崩」がユネスコ・エコパークに登録！

2017年6月14日、第29回ユネスコMAB（人間と生物圏）計画国際調整理事会は、日本政府が推薦していた「みなかみ」（群馬県・新潟県）と「祖母（そば）・傾（かたむき）・大崩（おおくえ）」（大分県・宮崎県）のユネスコ・エコパーク（生物圏保存地域）への登録を決定しました。これで日本からの登録は9地域になりました。

ユネスコエコパークとは、1976年からユネスコが正式事業として実施しているMAB事業（ユネスコ人間と生物圏）の中の1事業として開始された「生物圏保存地域」設定事業の、日本での正式名称です。世界自然遺産が保護・保全を第1の目的にしているのに対し、エコパークは保護・保全に加え、自然と人間社会の共生に重点が置かれて、持続可能な利用・活用の道を求めています。

「長崎・天草のキリシタン遺産」「奄美大島・沖縄島北部」の登録は？

すでにお知らせしたとおり、日本政府は本年2月1日に、「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」（長崎県、熊本県）を世界文化遺産に、「奄美大島、徳之島、沖縄島北部および西表島」（鹿児島県、沖縄県）を世界自然遺産に推薦するための正式な推薦書をユネスコに提出しました。今般、第42回世界遺産委員会で「神宿る島—宗像・沖の島」が登録されたので、この2つの遺産の登録の可否は2018年の第43回世界遺産委員会（開催地未定）で審議される見通しとなりました。

